

VI 研究・研修の構想

1 目的

- ・教職員の専門性の向上
- ・教職員が共に学び、支え合うチームワークの充実

2 基本方針

- (1) 専門研修 教職員の専門性を高めるための各種研修（次ページの計画による）
- (2) 情報収集 授業作りや支援に有益な情報を収集したり、学校で実践した指導に有効な内容をHPで公開し、広く意見を求めたりする。
- (3) 実践研修 下記の計画の通り

3 研究主題

「個に応じた支援の工夫～実態把握を生かした個別の指導計画の作成～」

4 主題設定の理由

当校は知的障害の児童生徒を対象とした小中高等部設置の特別支援学校であり、共生社会に対応する人材の育成を目指して教育活動に取り組んでいる。昨年度までの4年間、「社会と関わり合いながら生きていく力の育成」というテーマで研究を行ってきた。「家庭・地域などの社会の中で1人でできる力を育てる」ことを目標に、児童生徒の学びやすさを追求してカテゴリー分けした「新教育課程」を導入し、優先順位の高い学習内容をしぼり、目的行動を成すために必要な知識・技能・工程をまとめた指導マニュアルとそれを評価するための検定票の開発に取り組んできた。また、それを家庭や地域に般化させていく単元作りにも取り組んできた。

この4年間の研究で、教師が見通しをもって指導したり、評価基準が明確になることでつまづきを分析し授業改善につなげたりすることができた。また、活動の始めから終わりまで、児童生徒が1人で完結できる力が、様々な分野領域で伸びた。

一方、一斉授業の中で個々の児童生徒の能力差にどう対応するか、個々の実態に応じた授業の進め方が課題となった。

そこで今年度からは基礎に立ち返り、児童生徒一人一人の特性を十分理解したうえで、個々の力を引き出すための学習指導の在り方を検討する必要があると考えた。学習指導では、実態把握、目標の設定、活動の計画（手立ての工夫）、実践、評価、という一連の流れで進めていくことになるが、個々の力を引き出す実践（指導）を行うためには、個々の特性の理解や有効な手立ての工夫が不可欠である。そのため、初年度となる今年度の研究主題を「個に応じた支援の工夫～実態把握を生かした個別の指導計画の作成～」とし、児童生徒一人一人の特性や教育的ニーズを把握し、それをどのように個別の指導計画に生かしていくかの検討に重点を置くこととした。簡単に実施できる検査法の導入や行動観察などによって、どのように児童生徒の発達段階や特性を理解していくかを学び、その結果をどのように個に適した指導目標の設定や、より有効な手立てや支援の在り方に反映していくかを、学部または学級毎に検討していく。この研究を通して、全職員が子どもを見る目を養い、発達段階に応じた支援の在り方を学び、個に応じた支援を踏まえた指導体制作りにつながっていくと期待している。

5 研究内容及び方法

(1) 研究内容

個々の実態把握を生かした個別の指導計画

(2) 研究方法

授業研究を含めた実践研究

- ・学部1実践
- ・魚沼地区特別支援教育フェスタにて、テーマグループごとに実践発表を行う。